

「E」から「南のひと」へ

生まれた千葉県も、3歳の頃に
移り住んだ東京の端のニュータウ
ンと呼ばれる住宅地も、小学校卒
業後、父親の転勤で引越したア
メリカ、ワシントンDCの郊外
も、写真を勉強する為移り住んだ
ニューヨークも、故郷と呼べるよ
うな場所ではなかった。なぜなら、
私の真ん中の部分が、ここでは無
いどこかを常に探しているよう
だったから。

母が時折り戦時中に亡くなった

祖父は沖縄の人だったと話してい
たのが記憶のどこかに引つかかっ
ていた。大学を卒業して数年後、
1999年の夏に沖縄を訪問した。
祖父は首里の人だったが、八重山
も見てみたいと思いい足をのびした。
その時によみがえって来たのが
子供の頃の記憶だった。小学生の
頃、家族と通った長野県、聖高原
にあった「山のいえ」、そこには
必要最低限のものしかなかったが、
空想にふけり想像を膨らませるに

は贅沢な環境が揃っていた。夜の
静けさと闇、朝の霧に包まれた
湿った深緑の山々が放つ空気。鳥
や虫たちのなき声、風に揺れる
木々や草の音。そして、私たち人
間は言葉では表せない大きなもの
の中の一部であるという感覚が存
在していた。

八重山には、今でもその感覚が
存在している。果たしてそれを故
郷という言葉で表せるのかは分か
らないが、今の私を形成している
一部であることは確かだ。

「南のひと」シリーズでは、目
には見えないものを被写体の存在
を通して写そうと試みている。そ
れは、「文化」とか「自然」とか、色々
な言葉に置き換えて表そうとし
けれど、今は、「言葉に置き換え
られない何か」で良いのではない
かと思っている。

生まれてから日本を離れるまで
の13年間暮らした関東よりも、中
学、高校、大学、社会人として13
年間暮らしたアメリカよりも、私
は竹富島に長く暮らしている。私
もすっかり「南のひと」である。



私
にとつての故郷、
そして八重山

水野 暁子 (みずの あきこ) 46歳 写真家

1973年5月20日、千葉県で生まれ。

千葉、東京、アメリカで育つ。

竹富島在住。

1986年に家族とアメリカへ渡る。

1996年、School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。

現在子育てをしながら撮影活動中。

* 上写真

10年ほど前に「南のひと」として水野さんが撮影した青年
がカメラマンへと成長し、数年前に再会した時に写して
くれた一枚とのこと。石垣島の公園にて。